

# 世界トップレベル研究拠点プログラム (WPI)

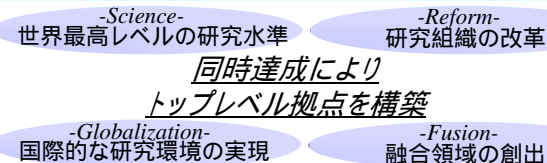
(背景) 優れた頭脳の獲得競争が世界的に激化してきている中で、我が国が科学技術水準を維持・向上させていくためには、世界中から研究者が「そこで研究したい」と集う拠点を構築し、優秀な人材の世界的な流動の「環」の中に位置づけられることが必要である。

(概要) 大学等への集中的な支援により、システム改革の導入等の自主的な取組を促し、**優れた研究環境**と**高い研究水準**を誇る「**目に見える拠点**」を形成する。

## 拠点形成に向けて求められる取組

- 国際水準の運営と環境
  - ・職務上使用する言語は**英語を基本**
  - ・拠点長の強力な**リーダーシップ**
  - ・スタッフ機能の充実等により**研究者が専念できる環境**等

- 中核となる研究者の**物理的な集合**
- 国からの予算措置額と同程度以上の**研究費等のリソースの別途確保**



## 拠点のイメージ

- ・総勢100~200人程度あるいはそれ以上 (WPIフォーカスは70人~)
- ・世界トップレベルの主任研究者 (PI) 10~20人程度あるいはそれ以上 (WPIフォーカスは7人~)
- ・研究者のうち、常に**30%程度以上は外国人**

## 支援内容

対象: 基礎研究分野  
 期間: 10~15年 (平成19年度より支援開始)  
 支援額 (1拠点あたり/年): 13~14億円程度 (WPIフォーカスは~7億円程度)  
 フォローアップ: ノーベル賞受賞者や著名外国人有識者等による「プログラム委員会」を中心とした強力なフォローアップ体制による、**丁寧な状況把握ときめ細やかな進捗管理**

## WPI拠点

(平成24年度採択)  
**名古屋大学 ITbM**  
 研究分野: 合成化学 × 動植物学 × 計算科学  
 拠点長: 伊丹 健一郎

(平成19年度採択)  
**京都大学 iCeMS**  
 研究分野: 物質・細胞統合科学 (化学 × 物理学 × 細胞生物学)  
 拠点長: 北川 進

(平成19年度採択)  
**大阪大学 IFReC**  
 研究分野: 免疫学 × 画像化技術 × 生体情報学  
 拠点長: 番良 静男

(平成22年度採択)  
**九州大学 I<sup>2</sup>CNER**  
 研究分野: 工学 × 触媒化学 × 材料科学 等  
 拠点長: Petros Sofronis

(平成19年度採択)  
**東北大学 AIMR**  
 研究分野: 数学 × 材料科学 等  
 拠点長: 小谷 元子

(平成24年度採択)  
**筑波大学 IIIS**  
 研究分野: 神経科学 × 細胞生物学 × 生化学 等  
 拠点長: 柳沢 正史

(平成19年度採択)  
**物質・材料研究機構 MANA**  
 研究分野: マテリアル・ナノアーキテクトニクス (材料科学 × 化学 × 物理学)  
 拠点長: 青野 正和

(平成19年度採択)  
**東京大学 Kavli IPMU**  
 研究分野: 数学 × 物理学 × 天文学  
 拠点長: 村山 斉

(平成24年度採択)  
**東京工業大学 ELSI**  
 研究分野: 地球惑星科学 × 生命科学  
 拠点長: 廣瀬 敬

## 拠点立ち上げ期にある4拠点の構築を着実に進める

- 平成24年度、先鋭な領域に焦点を絞った拠点を採択 (WPIフォーカス)。
- 新たに発足したこの3拠点 (筑波大学IIIS、東京工業大学ELSI、名古屋大学ITbM) および平成22年度採択の九州大学I<sup>2</sup>CNERの着実な拠点構築に向けてきめ細やかに進捗を把握・支援。
- 先鋭な領域における世界の競争に新規参入し、「国際基準で世界と戦う、世界に見える部分」の拡大を目指す。

## 先行5拠点の成果創出を確実に支援する

- 各拠点とも国内外より人材を獲得、**平均で研究者の約40%が外国人**。英語使用が名実ともに「当たり前」。
- 各拠点の若手研究者公募には世界中から応募、海外民間財団からの寄附を獲得等、「**目に見える拠点**」として知られる存在に。
- 世界トップの大学等と同等あるいはそれ以上の**質の高い論文を輩出**。

■質の高い論文の輩出割合



※機関 (先行5拠点) から出た論文のうち、他の研究者から引用される回数 (被引用数) が多い上位1%にランクインする論文の割合。

(トムソンロイター社調べ (2011年10月時点))